

2008年10月1日発行

第87号



友の会ニュース

発行所
神奈川県建設協同組合
〒216-0011川崎市宮前区犬蔵1-4-14
TEL044-976-1151
FAX044-976-0557
フリーダイヤル0120-633-306
定価10円
発行人 白田武美
編集人 伊藤実

超長寿命住宅 二百年住宅提言

今、住宅業界では『200年住宅』という言葉をよく耳にします。少し前までは、長寿命住宅の代名詞は『100年住宅』だったというのに：誰が、なぜ100年も上乘せしたのでしようか。これは昨年5月に自民党住宅土地調査会が発表して、福田首相の所信表明でも取り上げられたことが始まりです。

住団連が提言している200年住宅は放っておいても長持ちするような家を建設するということではなく、定期的に修繕補修をしつつ構造体以外をすべて取り替えるような大掛かりな改修も行うということ、簡単に言うと「こまめな手入れをして長く大切に使う」ということです。そのために200年住宅の実現・普及に向けた12の政策提言を発表しました。

超長寿命住宅に対応した金融や流通・建設など政策としてにわかに現実味がでてきて、大手メーカーは200年住宅の商品化に向け動き出し、暗いニュースが多かった住宅業界に久しぶりの明るい話題となりました。

しかし、200年といえれば人生70年としても3世代。欧米に比べ高温多湿で降水量も多く地震大国の日本で、この住宅の正否を検証するにはあまりに長すぎて想像

すらできません。200年という数字はどこからでてきたのでしょうか。ただなんとなくゴロが良いとか「言ったもん勝ち」のような印象はぬぐえません。

今、日本の住宅の寿命は30年で英国77年・米国44年と比べると極端に短いのですが、これらは住めないほどに壊れてしまつて建替えるというのは少なく、ほとんどが世代が変わることで生活様式や環境が変化したり、居住者の好みなどによって建替えられています。

なんだかもったいないような気もしますが、実は壊して、つくるというこのサイクルは伐採したら植林するという日本の林業と合致し、その需要と供給のバランスは長く保たれてきました。近年は輸入材におかれ、バランスが崩れ、日本の林業は苦しくなるばかりです。

この200年住宅も輸入材



でつくられるようなことがあれば日本の林業をさらに圧迫することでしょう。

このように住宅業界に大きな衝撃と様々な波紋を与えた200年住宅ビジョンですが、福田首相の辞任で糸の切れた凧になってしまいました。

日本の伝統的な民家に見られるように地域の木や材料を用いて、気候風土にあうように構法や技術を工夫し建てた住宅が今も残っています。また、何百年とはいかないまでも親や祖父の代から受継いだ家屋を大事にし住まう人々も大勢います。それを守ってきたのは住み手の家に対する愛情と地域に生きる大工・工務店の力です。

どんなに頑丈に造つたとしても五年・十年で壊してしまえば、それは五年・十年住宅でしかありません。どんな家でも時間と共に傷んでいきます。こまめにケアをし、愛着の持てる住まいづくりをすることが長持ちさせることに繋がるのです。200年なんて現実味のない数字に振り回されることなく、地域に根ざした工務店、小さな工事も対応できる工務店のつくる住まいが結果として長寿命住宅となる気がします。

